

# ちょっと読んでみませんか（令和四年御会式）

## 第65話『この世を浄土に』（本源寺副住職 本間健司）

日蓮聖人は、何のために命がけで布教したのでしょいか？  
どのような目的を持って、法華経への信仰・御題目の実践を勧めたのでしょいか？

その答えを一言で言うならば、それは

「この世を浄土にすること」であつたと思います。

日蓮聖人がお弟子さんたちに残した文章の数は、分かつているだけでも450部ほどもあります。その中でも、日蓮聖人の肉筆が現存し、最も大切と言われ伝えられている次の二文には、「この世の浄土」のことがはっきりと述べられています。

一つ目は『立正安国論』です。

なんじ しんこう すんしん  
汝、早く信仰の寸心を改めて、速かに実乗の一善に帰せよ。  
しか すなわ せんがい みなぶつこく  
然れば則ち三界は皆仏国なり。仏国それ衰えんや。十方は悉  
ほうど ほうどなん やぶ  
く宝土なり。宝土何ぞ壊れんや。  
くに すいびな ど はえな  
くに衰微無く土に破壊無くんば、身は是安全にして、心は是  
ぜんじょう ことば こと 信ず可く崇む可し。  
（一二六〇年、日蓮聖人39歳、鎌倉にて）

### 【現代語訳】

『正しい教えを立てて国家を安穩にすること』

（本文） さあ、今すぐにも信仰の心を少し改めて、すみやかに、唯一の真理が説かれた妙法蓮華経の教えに入り、御題目を実践して下さい。

そうすれば、欲望や怒りに満ちた「三界(さんがい)」と呼ばれるこの苦しみの世界がすぐに「仏の世界＝浄土」へと生まれ変わるのです。

この浄土は決して衰えるものではありません。また、宇宙全体も美しい宝に満ちあふれた「宝土」へと変化するのです。この宝土も決して壊れることはありません。

その時、この国が衰えることは無く国土も破壊されることが無いので、私たちの身体は安全で、いつも穏やかな心でいられます。どうか、この真理を、そして私の言葉を信じ大切にしてくださいのです。

そして、二つ目は『如来滅後後五百歳始 観心本尊抄』という御文章です。

今、本時の娑婆世界は、三災を離れ四劫を出たる常住の浄土なり。仏既に過去にも滅せず、未来にも生ぜず。所化以て同体なり。此れ即ち己心の三千具足三種の世間なり。

(一二七三年、日蓮聖人52歳、佐渡にて)

#### 【現代語訳】

『釈迦滅後二千年以上経過した末法(まっぼう)時代に始めるべき、心の中に本尊を観ずる実践について』

(本文)御題目を唱え、仏様の永遠の命が全ての衆生(しゆじやう)に宿っていることを皆が悟ったならば、「耐え忍ぶ世界」と呼ばれるこの世から火災・水災・風災という自然災害が無くなり、また、生成から衰退・消滅を繰り返す循環からも抜け出すことが出来、つまりは、この世が「永遠の浄土」へと生まれ変わります。

その世界では、「仏」という存在は過去に亡くなったものでなく、また未来に現れるものでもない。常に私たちと一体となって存在し続けるものなのです。

これが、御題目を唱える功德であり、心の中にある本尊―大宇宙の真理世界なのです。

日蓮聖人の時代も、また現在も、お釈迦様が亡くなられて二千年以上経過した「末法（まっぽう）」という時代ですので、人心が乱れ自然災害や疫病が続発しているのです。

そんな大変な時代の中にもかかわらず、日蓮聖人は「決してこの世に希望を捨ててはいけない！」という命がけのメッセージを私たちに託されたのです。

そのメッセージとは、法華経で初めてその正体を示された「永遠の仏様」に私たちが見守られ導かれていることを信じなさいということ。

そして、その“仏様の魂”である御題目「南無妙法蓮華経」を唱えることによって私たちは「永遠の仏様」と一体となり、一人一人がそれを実践し功德を積み重ねることによって「この世が浄土」となるということです。

きっと訪れるその日まで、あきらめず御題目を唱え続けてほしい！

——そんな命がけの熱いメッセージです。

ですから、いかなる困難な時代が待ち受けていようと、日蓮聖人の弟子である私たちだけは決して希望を失わず「この世が浄土に」という日蓮聖人の悟りと祈りを込め、御題目を唱え続けていかなくは、と強く感じます。

そうしないと、日蓮聖人の命がけの布教が全く無意味なものになってしまうのですから。

さあご一緒に、明るい未来へこの世の浄土を祈りながら、「南無妙法蓮華経」とお唱えしましょう。きっと日蓮聖人があなたのすぐ横で涙を流しながら喜んでくれるはずですよ。

「私の想いを継いでくれてありがとう…」と。

合掌 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経